

24日（木）に、三崎小学校2年生が、図画工作の授業で、海のフォトフレームづくりに取り組みました。



まず、段ボールを、フレームの大きさに切っていきます。中には、立体的なフレームにしたり、スタンド型に工夫したりした子どもたちもいます。

作ったフレームに、絵の具で色を塗っていきます。児童の個性が表れていきます。



次に、17日（木）に、城ヶ島の白秋碑前の浜に行って拾ってきた貝殻を、フレームの周りに飾り付けていきます。貝は、ボンドでしっかり貼り付けていきました。

完成した作品は、廊下の長机の上に並べていきました。大きな貝を貼り付ける子どもが多かったですが、貝を亀の甲羅に見立てた児童もいました。小さな貝をきれいに並べていった子どももいて、楽しい作品作りになりました。



い



26日（土）、潮風アリーナで、初声小学校130周年記念の全校発表会が行われ、4年生が海洋教育を内容にした発表を行いました。

最初の場面で、子どもたちが、ビニール袋を海に何気なく捨ててしまいます。それを、食べ物だと思って飲み込んだクジラや魚たちが苦しむことになってしまいました。

この場面で、子どもたちが、海洋プラゴミについて調べたことを発表しました。2050年には、海洋プラゴミの全体の量が、魚の全体の量を越えるのではないかとされていることなどを伝えていました。



ここで巻き戻しをして、最初の場面に戻り、子どもたちが海に落ちたレジ袋を拾って、魚たちにも楽しい生活が続くところで、終わりました。

最後に、全員で、「レジ袋くらいなら」という歌を歌って、発表を終えました。「今日、スーパーでレジ袋を断ってみた。これが、きれ

いな海を保つことにつながるならば、レジ袋くらいなら、自分たちでも続けられるかもしれない」というような内容の歌でした。

6年生のテーマも、「地球の危機」。海洋教育に関連したものでは海面上昇、海洋プラゴミ問題等について発表し、身近に起こった台風15号や19号と海洋の関係にも触れ、自分たちにできることを考えました。



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで